

# “エフディアルペリ” Q & A

## Q 1 : エフディアルペリとは？

A : 次のような特長をもつ床用の光重合型動的機能リライン材です。

- ①粉液比を変えると床辺縁に盛り上げることができますので、床の延長や封鎖、筋圧形成が行なえ、床の外形を直すことができます。
- ②はじめは軟質でティッシュコンディショナーとしての機能があり、数日間かけて患者自身によって動的機能印象が採得された後は、光重合で硬質のリライン面に変えることができます。
- ③硬化は光重合と熱（体温）重合のデュアルキュアタイプで、万一光照射ができなくても安心です。

## Q 2 : 光重合型動的機能リライン材とは？

A : 従来品とは全く異なったタイプの床用のリライン材です。はじめはティッシュコンディショナーとして粘膜調整（10日間前後）をしながら、機能印象がとれた時点で、そのまま光重合させて硬質のリライン面に変えることができます。床裏装に必要な条件を全て備えた次世代の床用リライン材で、当社が世界に先駆けて開発に成功しました。

## Q 3 : 床の辺縁封鎖とは？

A : 義歯は唾液を介し、ゴム製の吸盤のように床粘膜面が陰圧となり歯ぐきに吸着します。ところが歯ぐきがやせて、義歯との隙間が大きくなると、陰圧がやぶれて義歯の吸着が悪くなり、外れてきます。そこで陰圧を保つために床辺縁の封鎖性をあげる必要があるわけです。

## Q 4 : 床辺縁に盛り上げることができるメリットは？

- A : ①粉液比を変えるだけで混和初期の段階から床辺縁に盛り上げることができ、床の延長や辺縁封鎖が簡単に行えます。
- ②盛り上げた『エフディアルペリ』はさわってもベタつかないので、手指であらかじめ理想的な形に概形成しておくことによって、容易に筋圧形成（ボーダーモールディング）をすることができます。（注）床の辺縁が極端に短く、5mm以上の延長が必要な場合には床延長専用レジン『ペリモールド』（株ヨシダ）で先に床の延長を行ってから本品をご使用ください。

## Q 5 : 従来のリライン材ではなぜ辺縁の延長、封鎖を行えないのですか？

A : 短い入れ歯の場合、リライン材は流れが良すぎて床縁からあふれ出てしまい、辺縁封鎖に必要な適度の厚み（コルベン形態）をもった床の辺縁形成ができません。逆に、辺縁の厚みをだそうとすると床粘膜面全体が厚くなってしまって違和感が強くなるという欠点があります。

## Q 6 : 従来のリライン材で粉液比を変えて床辺縁に盛り上げられますか？

A : 盛り上げてもすぐに垂れてきます。またひっつきやすく手指であらかじめ概形成することができません。硬化直前のモチ状期には盛り上げることができますが、塑性変形せず、すぐに硬化が始まりますので時間的な制約が多く、十分な形成ができません。

# “エフディールペリ” Q & A

## Q 7 : シリンジ内の余剰分は？

A : シリンジは何回でも使用することができます。探針又はスパチュラを差し込んで余剰分を取り出してください。

## Q 8 : なぜ遊離端局部床義歯に好適なのですか？

A : 静的な状態での歯ぐきを型どった作業模型上で作られた義歯では、咬合時、歯牙の沈下量（歯根膜）と歯ぐき（粘膜）の沈下量が異なり、遊離端義歯ではクラスプのかかっている鉤歯を引き抜く力が働きます。これを防ぐために、咬合時、咬合圧が均等に粘膜面に分散されるように義歯が沈下した状態の位置での歯ぐきの型を時間かけて反映した義歯の粘膜形態でなければなりません。『エフディールペリ』は咬合力のかかった歯ぐきの動的機能印象面形態を採得しますので、従来行われていた作業模型の改変（アルタードキャスト）が必要なく、鉤歯をいためることも少なくなりました。

## Q 9 : ポリサルフォン床との接着性は？

A : ポリカーボネート床の場合は通常どおり、『ニュートップコート』を接着剤として使用いたしますが、ポリサルフォン床の場合にはメーカー指定の接着剤を『ニュートップコート』の代わりにご使用ください。

## Q 10 : 金属床との接着性は？

A : 基本的に本品は金属床には接着いたしません。やむをえない場合には、金属用の接着剤（例：『メタファスト』ボンディングライナー）を塗布し、即重レジンで金属部分を一層カバーした上に『ニュートップコート』を塗布して本品をご使用ください。

## Q 11 : 重合収縮は？

A : 光重合のため従来の常温重合レジンに見られるような熱収縮が少なく、適合精度が向上しております。

## Q 12 : 光照射時間と光重合器は？

A : 市販の技工用光重合器で光照射します。

なお、硬化に要する照射時間はご使用の技工用光重合器の取扱説明書等によりあらかじめご確認ください。

## Q 13 : 光重合しても表面硬化が不十分なような気がするが？

A : ①光照射不足

ランプの寿命の確認と、ランプに問題がなければ再度、必要に応じて研磨面、粘膜面の両方から光照射をしてください。

②『ニュートップコート』の塗付

空気中の酸素で重合阻害がおこりますので光重合用エアバリアーとしての『ニュートップコート』を表面滑沢剤として1回は塗布するようにしてください。

③デュアルキュアタイプ

光照射直後の硬化は約 80%程度で、残りは口腔内で徐々に硬化が進むデュアルキュアタイプです。

# “エフディアールペリ” Q & A

Q 1 4 : 光重合しないままに放置した場合は？

A : 光未照射でも1ヶ月ぐらいで徐々に硬化しますが、不均一に進む事があります。  
軟質用のリライン材としては当社の『FDソフト』、『コンフォートナー』をお勧めいたします。

Q 1 5 : 接着剤・表面滑沢剤ニュートップコートは必要ですか？

A : 『ニュートップコート』は接着剤として必ず使用してください。またリライン後は、『ニュートップコート』を表面滑沢剤としてリラインした粘膜面や床辺縁移行部削除部分に必ず塗布してください。表面荒れ防止と、光重合用エアバリアーとしての働きをします。

Q 1 6 : 保険請求は？

A : 義歯床の裏装です。

Q 1 7 : レジンアレルギーの有無は？

A : まれに粘膜面に発赤、腫張等のレジンアレルギー反応が見られることがあります。これを防ぐためにも、『ニュートップコート』を表面滑沢剤としてご使用の時は、必ず充分乾燥し、流水下で約60秒間洗浄するか、水中に数分浸して、におい、刺激がなくなったことを確認してから装着するようにしてください。

Q 1 8 : リライン面が面荒れするのですが？

A : ①標準粉液比

標準粉液比を守らず粉量が多い場合は、気泡を混入したままリラインする危険性があり、この気泡にプラークが付着し、石灰化することによって面が荒れることがあります。これを防ぐためにも、標準粉液比を守り、混和直後はできるだけ気泡を浮き上がらせて除去してから、床へ盛り上げるようにしてください。

②『ニュートップコート』の塗布

特に軟質のあいだは、入れ歯がデンチャープラークに汚染されやすく、目に見えない表面の小さな気泡の中に細菌が浸入し、材質の劣化、面荒れにつながります。これを防ぐためにも『ニュートップコート』を表面滑沢剤として塗布して気泡をつぶし、表面をコーティングしてください。

注) リライン表面に『ニュートップコート』を塗布しないと面荒れをおこしやすくなります。

③酵素系義歯洗浄剤による清掃

漂白効果の高い市販の入れ歯洗浄剤の中には軟質レジンの場合、一晩中浸漬しておく、内部の気泡が浮きでて、表面が荒れることがあります。光重合前で軟質の『エフディアールペリ』は、デンチャープラークに汚染されやすく面荒れの原因となりますので、軟質の間は酵素系の義歯洗浄剤『クリーンソフト』（亀水化学）で時々お手入れをしていただくようにしてください。

Q 1 9 : 使用回数は？

A : 上下総義歯1組として、約10組分のリラインができます。